

令和7年度 第2回 串間市公共施設等総合管理計画検討委員会 議事録

日時：令和7年11月18日

場所：串間市役所2階市長応接室

記録：鍋倉 智昭

出席者	根岸裕孝 委員、丹生晃隆 委員、井手明人 委員、阿萬光弘 委員、西村悟 委員、加藤真里 委員
欠席者	なし
事務局	谷山貴慶 課長補佐、中山慶輔 係長、鍋倉智昭 主事
傍聴者	なし
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>1) 第1回串間市公共施設等総合管理計画検討委員会の振り返り</p> <p>2) 公共施設に関するアンケート結果について</p> <p>3) 公共施設の整備方針や評価方法等について</p> <p>3. 第3回検討委員会の開催日程について</p> <p>4. その他</p> <p>5. 閉会</p>
資料	<p>資料① 第1回串間市公共施設等総合管理計画検討委員会の振り返り</p> <p>資料② 公共施設に関するアンケート結果について</p> <p>資料③ 公共施設の整備方針や評価方法等について</p> <p>資料④ 議事録 第1回串間市公共施設等総合管理計画検討委員会</p>

議事の経過	
発言者	発言の内容
事務局	1. 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料確認 ・ 傍聴希望者の確認
根岸委員	2. 議題 <p>1) 第1回串間市公共施設等総合管理計画検討委員会の振り返り (事務局より資料①を説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回の資料の中には周辺の自治体を説明するものはなかったため、参考になる。 ・ 今回記載されている自治体の中で、国の一人あたりの延床面積の平均約3m²に近い数字は宮崎市のみとなっている。 ・ また、合併したあるいは中山間地域にある自治体は、住民一人あたりの床面積は大きい傾向にある。 ・ (串間市の) これまでの推移をみると、区分の変更で増減はあるが、解体が事由となって減少に転じた例が少ない。これに関して、理由はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内において、適正管理に取り組む意志統一ができていないことが一番の要因であると考えている。 ・ また、統廃合や解体にむけての予算を組む財政の余裕がない。 ・ 予算があれば解体できる施設もある。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除却予定の施設はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題3で説明する。資料③にも記載がある。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設項目について、一番見られる増減の内容が区分の変更であるが、変更に関して基準、目安はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 串間市公共施設等総合管理計画の19ページに施設項目の記載がある。 ・ 当初の計画では適切に区分されていない部分があったため、一部改定の際に適切な分類分けを行った結果になる。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育施設について1,048m²と大幅増になっている。吉松家住宅が加わり、民間の活用も検討しているとあるが、どの程度検討しているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉松家について、この施設は文化財ということもあって、当初は計画にいれていなかったが、修理にかかる費用が大きく、計画にいれ

	<p>て管理せざるを得ないと判断した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市側の財政のみで維持していくことが困難であるため、今後民間の活用等の検討も必要と考える程度の記載になるかと思う。
	<p>2) 公共施設に関するアンケート結果について (事務局より資料②を説明)</p>
井手委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回答人数が270人とあったが、対象とした人数は何人程度になるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・9歳以下を除く、串間市民全員に向けて実施した。
井手委員	<ul style="list-style-type: none"> ・回答の年齢の幅はどの程度を想定していたのか。また、回答人数はどれくらいを想定していたか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・串間市の9歳以下の人口が約1,000人未満であるため、他の14,000人に向けて実施し、5分の1となる約300人程度を目標にしていた。 ・想定的人数に足りなかったことを踏まえ今後、設問を変えて第2回の実施、また周知の方法も考えている。
井手委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回についてもぜひ実施してほしい。 ・回答者が多くなったとしても回答の傾向事態に変わりはないと思うが、結果の説得力をもたせるためにも回答者数は多いほうが好ましい。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(主な周知の方法が串間市公式ラインであることをうけて、)公式ラインの登録者数はどれくらいか、また、市外の人も回答できたのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者数については財産マネジメント室では把握していない。 ・自由記述の欄に市外から回答したという記述があったので、現状として市外の方の回答があったと認識している。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の属性で公務員・団体職員が多いことが気にかかる。人口の割合を鑑みると、公務員・団体職員の割合が大きくなってしまふことは理解できる。 ・データセットが市民の意見を完全に反映しているとは考えづらい。公務員が多くの割合を占めていることからデータセットの指向に多少の偏りがあることには留意したほうがよい。
阿萬委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の7ページについて、利用していない施設については解体も仕方ないと感じる。地方創成をうたっている以上、国も地方に目を向ける必要がある。

根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方が景気の良い時期に多くのハコモノをつくって、それらが一斉に更新の時期を迎える。他の自治体を見ても特に合併、中山間地域についても同様の傾向がみられる。 ・ 国の平均にただあわせるのではなく、串間市の特色に合わせて統廃合等を進めていく必要がある。 ・ また、政権が変わり、積極財政に転じる方向であることから、そのたりの動向は加味したほうがよい。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢層について、10、20、70歳代の回答者が少ない。70歳代以上はインターネットに疎く、回答者が少ないことは理解できる。 ・ 秋祭りなどのイベントで回答できる機会を設けたほうが幅広い年代から回答が得られたのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙での回答もできるように用意はしていたが、今回はネット上での回答のみであった。イベント活用は有効だと考えるので、次回は考慮する。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ施設について、周辺自治体と比較して串間市の利用料は低いと聞く。中には半額程度で利用できる場合もあると聞く。 ・ 利用料の値上げをしていかなければならないように思う。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣自治体と比較していくことは必須。 ・ 学校施設についてはアンケートで扱わなかったのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育財産のため、統廃合などのデリケートな質問もあり教育委員会に配慮して今回は含めていなかった。 ・ 特に、学校施設の削減については周辺地域から反発が予想される。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設についても削減を考えていかなければ話はやはり進まない。 ・ 他の施設だけでは面積が小さいため、あまり効果は得られない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定通りであれば来年度以降、公共施設をすべて一元管轄することになるため、教育施設も含めていくことを考えている。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9ページについて、区分で分けられてはいるものの、市民向け、観光客向けの施設が混在している。 ・ そのため、10ページの相関については、総論はこの通りでよいが、観光客向けの施設を含めて良いか疑問が残る。 ・ 「施設があることを知らない」のような施設は個別で検討したほうが良いように感じる。
井手議員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本城農産加工施設については現在、利活用されているのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状としては地域の人が、加工品を乾燥させるなど一部利用されている。 ・温泉と合わせて建てた施設であり、体に優しい食品をつくるためにある。そのため、補助金を温泉と合わせて投じているため、こちらのみを除却は難しい可能性がある。
	<p>3) 公共施設の整備方針や評価方法等について (事務局より資料③を説明)</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料の説明に補足して、) 2 ページは現在の総合管理計画が、総務省の提示したガイドラインに対して、ポイントのみを記載している状況を示している。 ・来年度の改定にあたって先進地の事例の取り入れ、簡易評価の変更、目標設定に関して現実的なラインに合わせるべきか、これらについて意見をいただきたいと考えている。
井手委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の目標を達成するにあたって、公共施設の延べ床面積を約3分の1にすることは不可能なように思う。 ・4 ページに記載があるものを解体としても全体の11.5%にならない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・4 ページの一覧に関しては予算があればすぐにでも解体する施設にはなるが、処分方法にも解体の他、売却などいくつか種類はあるように感じている。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民との合意形成はできているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・もとより利用がない施設である以上、解体する方針であることが認識されている。そのため、民間で活用するというのも難しいと考えている。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚としては、全国の基準に合わせて減らす必要はないように感じる。地域性を鑑みた目標にすべき。 ・肝要なのは市民生活、産業、観光、教育などの本当に必要なものは残していくことを市民に示すべき。 ・攻めの姿勢も必要。なくしてばかりでよくなるわけではない。 ・新規の投資や、既存施設のリノベーションしていく姿勢も見せなければならない。 ・地域運営組織の単位ごとに将来像があり、行政や委員会だけで統廃合は考えられない。そういった組織とも連携がなければ合意形成はできない。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府が小さな拠点といった像を掲げている以上、政府も方向性を示すべきと考える。 ・ これから串間市が良くなるといったストーリーを計画に盛り込まないと、市民からの理解は得られない。 ・ 事務局としても総合管理計画は減らすことを目的とはしていない。 ・ 投資の予算を確保するため、不要な施設を減らしていくことが現状の目標となる。 ・ ゆくゆくは各地域のコミュニティ施設建設などの検討も必要と考えている。 ・ そのまえに、検討するための体制づくりを行っている。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民としては総合管理計画がどこを目指しているかわからず、納得しづらいようにある。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討を重ねたうえでであると思うが、民間活用について、現在構想はあるのか。温泉などは民間でもやりようがあるように感じる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 串間市としては具体的には一切検討をしてこなかった。この現状を改善するために財産マネジメント室を創設した経緯がある。 ・ イベントや研修に参加し、活用できそうな施設について、見当をつけている。今後、サウンディングを実施して可能性調査を進めていく。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人たちでも事業者などでグループを作って施設を維持するなど、そういった機運を高めていく必要がある。 ・ 8ページの地域インフラ郡再生戦略マネジメント（以下、郡マネ）について、理想は理解できる。実際の計画はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、郡マネについては技術者不足解消のため、国交省が推進している。 ・ 橋梁のみではあるが宮崎県でも先進事例として進めている一方、道路については取り組めていないため、ここにも手をつけていきたいと考えている。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の自治体との連携は難しいが、郡マネに取り組まなければならない状況になるのは必至。 ・ 公共施設削減のためにも必要であると考ええる。
井手委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域運営組織に対しての働きかけも早急に行わなければならない。 ・ 地域運営組織には集落支援の方々が積極的に携わってくれている。そういった方々も活用していくべき。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街づくりには施設がそもそも前提にある。市全体と地域運営は分け

阿萬委員	<p>て考える必要になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校校舎の統廃合後の利用について、利用したい声があったが、頓挫した記憶がある。 ・市木地区には移住者が比較的多く、積極的に運営に意見をくれることも多い。そういった層もぜひ活かしていくべき。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を削減するというだけの考えは良くない。 ・PFI等を図るうえでサウンディングは非常に重要になる。 ・行政の目線だけでなく、どのような条件を整えれば民間が活用できるかなど、理解できる側面もある。 ・宮崎市などは施設のサウンディングツアーを行い、民間にもどのような利活用ができるか考えてもらう場を設けている。 ・今年12月6日に廃校学校を行うが、民間の参加者も多い。 ・活用している人とどう折り合いをつけて、民間がどう活用したいかを知るだけでも今まで考えは変わってくる。 ・今まで民間と行政の接点がなかったが、今後はこういう場を設けることが大事。 ・宮崎県内の事例でも簡易郵便局と宿泊施設をセットにして経営するなど、行政だけでは出ないようなアイデアを実行している施設がある。 ・こういった事例も参考にしつつ、厳しい財政状況のなかでも希望が持てるような施策も考えていかなければならない。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・PPP/PFIについても市内の事業者とも連携している可能性も模索しなければならない。 ・道の駅の運営であったり、広島から路面電車を持ってきたり、串間市の民間事業者にも活気はある。 ・久々に串間市に訪れると、新しい店舗ができていたりして、そういった事業者を引き付けるような魅力が串間市にはある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法について一度意見をいただきたい。これまでの評価は曖昧さがあり判断が難しかった。先進地を例に改定では評価を3段階に分けて行いたい。
丹生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・判定のための材料が必要になることは予測される。
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の市町村でもこういった評価を行っているのは見られる。11ページのほうがわかりやすく説明しやすい。 ・こういった評価方法のほうが良いように感じる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この評価方法で進めさせていただく。

<p>事務局 根岸委員 事務局</p>	<p>3. 第3回検討委員会の開催日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月の第3週を目途に考えている。 ・16, 19, 20日が都合がよい。 ・全委員のスケジュールを確認し、串間市役所3階大会議室にて2月16日（月）午前10時開始を予定。 <p>4. その他 （特になし）</p> <p>5. 閉会</p>
-----------------------------	---

以上のとおり、第2回串間市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録として確認
します。

令和7年12月25日

委員

根岸裕子